

## オオナンバンギセル ハマウツボ科

*Aeginetia sinensis* G.Beck

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



江府町 2010.8.19/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：生育環境の山地草原が減少しており，確認地，個体数ともに少ない。ナンバンギセルと比べ，やや標高の高い場所に生育する。

■**特徴**：山地の草原に生育する1年生の寄生植物。イネ科の植物やスゲ類に寄生する。高さは20–30 cmで，8月中–下旬に紅紫色の花を咲かせる。近縁のナンバンギセルと比べて，より花期が早く，萼片の先端が尖らず，花冠の縁に細かな鋸歯がある点で区分できる。現在確認している自生地は，北東向きの風衝草原でアカモノ，マツムシソウ，ヒカゲスゲなどの生育している斜面。自生地には低木類が定着しつつあり，樹林化すれば絶滅のおそれがある。花期以外には見つけにくいので，適季の調査努力が望まれる。

■**分布** 県内：三朝町，江府町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：山地の風衝草原の維持管理。採取防止。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

## ハマウツボ ハマウツボ科

*Orobanche coeruleascens* Stephan ex Willd.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



北栄町 2006.6.4/撮影：清末幸久

■**選定理由**：カワラヨモギに寄生するが，海岸林育成や海岸侵食による砂浜縮小，外来植物定着による環境変化が影響して少なくなってきた。

■**特徴**：海岸や河川の砂地に生える1年生の寄生植物。県内では海岸砂地のカワラヨモギに寄生する。葉緑体を持たず，葉は鱗片状に退化している。花期は6月。海岸林育成による海浜草原の縮小や外来植物の繁茂でカワラヨモギ群落は減少し，ハマウツボも見られなくなってきた。天然記念物鳥取砂丘内では除草によりカワラヨモギがほとんどなくなり，ハマウツボは現在見られない。古くから存在が知られており，鳥取藩の本草学者平田眼翁の記した「因伯産物薬効」にも産地等が記載されている。

■**分布** 県内：鳥取市・気高町，湯梨浜町，北栄町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：海岸砂浜の保護，保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：清末幸久・永松 大

## キヨスミウツボ ハマウツボ科

*Phacellanthus tubiflorus* Siebold et Zucc.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



大山町 2007.7.5/撮影：長尾利宏

■**選定理由**：自生地が限られ，毎年少しづつ異なる場所に出現する。年変動が大きく，VUと評価した。

■**特徴**：丘陵地や山地の湿った落葉広葉樹林下に生育する多年生の寄生植物。色素を持たず白いキノコのように見える。カシやアジサイ類の根から栄養を摂取し，大山では梅雨時に，散策道沿いのエゾアジサイ根元に出現する。茎はほとんど地中にあり2–8 cm，退化した白い鱗片葉に密に覆われる。花期は6月中旬–7月初旬。茎頂に5–10個が頭状に集まって花穂を形成。花冠も白色で3–5 cmの筒状。開花後4,5日で茶褐色になり溶けるように花が終わる。楕円形の白い液果をつける。

■**分布** 県内：若桜町，琴浦町，大山町。県外：北海道，本州，四国，九州。北東アジア。

■**保護上の留意点**：踏みつけ防止。登山道や谷筋等の工事時の配慮。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：57.

執筆：長尾利宏

## イヌタヌキモ タヌキモ科

*Utricularia australis* R.Br.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



日南町 2010.9.6/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内のため池にややまれに生育する。比較的小さいため池に多く見られ、日当たりが悪くなると花がつかず消滅する。

■**特徴**：ため池に浮遊する多年生草本。茎は細く、長く伸びて1 mになる。葉は基部から2分枝、さらに2分枝を繰り返して広がり、細く羽状。花期は8-9月。花茎は茎よりも太く、高さ20 cmほど。断面中実で果実期には下向に曲がる。花は黄色。果実は球形。よく似たタヌキモは花柄が中空、葉は3分枝であるが、県内には分布しない。岸边から近いところに多く、池の周りの木が茂ってくると減少する。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市、八頭町、倉吉市、米子市、南部町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：ため池保全管理と周辺の樹木、草本の管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

## ミミカキグサ タヌキモ科

*Utricularia bifida* L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



米子市 2010.8.17/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地は1カ所のみ。ため池の保全管理により比較的安定的な状況にあるが、個体数はわずかである。

■**特徴**：日当たりのよい山地の貧栄養湿原に生育する微小な多年生食虫植物。地中に糸状の地下茎を張りめぐらし、小さな捕虫囊をつける。葉は地下茎の各所から地上に出し微小。花茎は細長く伸び、10-17 cm。花は黄色で約7 mm。水位の変化するため池縁などで生育例があり、ミミカキグサの仲間では最も生育範囲が広いとされる。自生地はため池の土手下にある小規模な湿地で、草刈りが毎年行われており、現在は比較的安定している。他の植物に被圧されやすく、湿原の保全管理が行われなくなれば絶滅する。

■**分布** 県内：米子市。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：草刈りなど自生する湿地の植生管理継続が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

## ホザキノミミカキグサ タヌキモ科

*Utricularia caerulea* L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



米子市 2010.8.17/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：湿地の草刈り管理により2009年に生育を再確認した。県内の自生地はこの1カ所のみ、個体数も少数で、絶滅のおそれが非常に強い。

■**特徴**：日当たりのよい山地の貧栄養湿原に生育する微小な多年生食虫植物。地中に糸状の地下茎を張りめぐらし、小さな捕虫囊をつける。地下茎から株状にへら形の微細な地上葉をだす。花茎は細く伸び、長さ10-25 cm、花は淡紅紫色で約8 mm。距は前方に突き出す。近年、生育が確認できなくなっていた湿地で草刈りを実施したところ2009年に生育しているのが発見された。ミミカキグサ、ムラサキミミカキグサと混生している。他の植物に被圧されやすく、湿原の保全管理が行われなくなれば絶滅する。

■**分布** 県内：米子市。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：草刈りなど自生する湿地の植生管理継続が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

## ムラサキミミカキグサ タヌキモ科

*Utricularia uliginosa* Vahl

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



米子市 2010.8.17/撮影：矢田貝繁明

- 選定理由**：県内での自生地は3カ所のみ、互いに隔離分布している。自生地は湿原やため池跡地などで、生育環境の変化による絶滅が心配される。
- 特徴**：日当たりのよい山地の貧栄養湿原に生育する微小な多年生食虫植物。地中に糸状の地下茎を張りめぐらし、小さな捕虫嚢をつける。葉は地下茎の各所から地上に出すが微小。花茎は細く伸び、長さ10–15 cm、花は紫色で約4 mmとミミカキグサ類の中で一番小さい。距は下向き。ミミカキグサやホザキノミミカキグサよりも有機物の多い土壌を好むとされる。
- 分布** 県内：岩美町、米子市、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。
- 保護上の留意点**：草刈りなど自生する湿地の植生管理継続が必要。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献**：15.

執筆：矢田貝繁明

## キンギンボク スイカズラ科

*Lonicera morrowii* A.Gray

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



岩美町 2006.5.6/撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内では、東部の一地区だけに孤立的に生育する。すぐに絶滅する状況にはないが、今後の推移に注意をはらう必要がある。
- 特徴**：低山に生育する落葉低木。分枝して株状になり、高さ1–2 m。枝は垂れる傾向にある。若枝には軟毛が密生する。葉は対生、広楕円形–狭楕円形、葉脈が深くしわ状に見え、軟毛が密生する。花期は5月、葉のつけ根に2個ずつつく。花ははじめ白色で後黄色になる（キンギンボクの由来）。果実は球形で2個が合着しており赤く熟す（別名ヒョウタンボクの由来）。県内では海岸砂地に接する岩崖地、道路端の崖地に生育する。庭園などに植栽されることがある。
- 分布** 県内：岩美町。県外：北海道（西南部）、本州（東北地方および日本海側）。
- 保護上の留意点**：自生地では道路の維持管理（刈り払い）に注意。
- 文献**：—

執筆：西尾幸弘

## ダイセンヒョウタンボク スイカズラ科

*Lonicera strophiphora* Franch. var. *glabra* Nakai

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山 2010.5.18/撮影：鷲見寛幸

- 選定理由**：アラゲヒョウタンボクの変種で、大山が基準産地。県内では大山と氷ノ山のブナ帯に生育している。
- 特徴**：ブナ帯域に生育する落葉低木。若枝は長腺毛が散生するが、後に無毛となる。葉は卵形–長楕円形で鋭突頭、基部は円形、粗毛と腺毛がある。花期は4–6月、花柄の先に2花をつける。花冠は白黄色、漏斗状で下垂する。液果は球形で赤くなり、2個がヒョウタン形になることからこの名がついた。北海道から四国の山地に分布する基本種のアラゲヒョウタンボクとは、子房や花柱の下半分に毛がないことで区別する。
- 分布** 県内：若桜町、智頭町、大山町。県外：本州（近畿–中国地方）。
- 保護上の留意点**：採取防止。ブナ帯域の自然林保護。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献**：—

執筆：鷲見寛幸

## カンボク スイカズラ科

*Viburnum opulus* L. var. *sargentii* (Koehne) Takeda

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2008.6.1/撮影：藤原文子

- 選定理由：県内では山地に孤立的に生育し、個体数も少ない。
- 特徴：山地の湿地周辺や日当たりのよい沢沿いに生育する落葉低木。高さ1–2 m。葉は対生し、倒卵形。3中裂し3脈が顕著、長さ幅とも5–6 cm、裂片鋭突頭でまばらに鋸歯がある。花期は5–6月。散房花序をつけ、花序は無毛。縁辺部に飾り花、中心部に両性花を多数つけ全体白色。雄しべが突出、葯は濃紫色。果実は楕円球形で赤熟。近年新たな自生も確認されたが、個体数は少数で状況に変化はない。鑑賞用に栽培されることがある。
- 分布 県内：日南町。県外：北海道、本州（中部以北に多く、中国地方ではまれ）。
- 保護上の留意点：採取防止。山間湿地や沢沿い周辺の自然植生保護。個体周辺では幼苗が見られ、草刈時に配慮が必要。
- 文献：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

## マツムシソウ マツムシソウ科

*Scabiosa japonica* Miq.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



三朝町 2010.8/撮影：長 兼巳

- 選定理由：山地草原の利用放棄による環境変化で個体数が減少してきた。採取圧も存在する。
- 特徴：日当たりの良い山地の草原に生育する越年生草本。乾燥した砂礫地に多い。草丈は30–60 cm、葉は対生で羽状に深裂する。無毛、下部の葉は長柄がある。ロゼットで越冬する。花期は8–10月。多くの花が集まった径3 cmほどの頭状花をつけ、青紫色。小花の花冠は5裂し、花序の側に並ぶものが2唇状に大きく発達して舌状花のようにみえる。背の高い植物が繁茂すると生育が困難になる可能性が高い。
- 分布 県内：智頭町、三朝町、倉吉市関金町、大山町、伯耆町、江府町、日南町。県外：本州、四国、九州。
- 保護上の留意点：採取防止と山地草原の維持。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献：—

執筆：長 兼巳

## フクシマシャジン キキョウ科

*Adenophora divaricata* Franch. et Sav. var. *manshurica* Kitag.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



江府町 2010.8.19/撮影：藤原文子

- 選定理由：初版の確認地では絶滅。その後新たな自生地が発見されたが、草地の管理不足にともない、ここ数年で個体数減少。
- 特徴：山地のやや乾いた草地に生える多年生草本。高さは0.5–1 m、開出する白毛が多い。葉は3–5枚輪生するが、ときに対生または互生し、無柄、卵状楕円形で長さ5–10 cm。花期は8月、茎頂にまばらな円錐花序を出す。花は下向き、花冠は淡紫色から白色の鐘状で先はやや広がり浅く5裂。花柱は花冠から少し突出。萼裂片は披針形で全縁、よく似たツリガネニンジンの萼片は線形で鋸歯がある。2007年に発見された自生地は草刈りされて日当たりがよくなったが、その後他の植物に被圧されるようになり、個体数減少した。草刈りを継続しないと数年で絶滅する恐れがある。
- 分布 県内：江府町、日南町。県外：本州（中部以北）。
- 保護上の留意点：山地草地の維持管理および周辺森林の保護。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

**シデシャジン** キキョウ科  
*Asyneuma japonicum* (Miq.) Briq.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日南町 2010.7.19 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内での自生地はきわめて少なく、孤立している。初版後に新たに確認された場所でも、生育環境悪化し個体数は減少がみ。

■**特徴**：山地の明るい林縁などに生える多年生草本。全体に粗毛を散生し茎は直立して高さ50–100 cm。葉は互生で卵形–狭卵形、縁に不揃いの鋸歯がある。花期は7–8月。花序はやや穂状で下部は分枝する。苞と萼は線形。花冠は深く分裂して開出し、裂片は線形で長さ1–1.2 cm、やや反曲、花柱は突出する。花糸は基部が太く縁に毛がある。自生地には2008年、9年ぶりに生育を再確認した場所、2010年に新たに発見した場所があるが、いずれも数株のみで厳しい状況。

■**分布** 県内：日南町。県外：本州、九州。

■**保護上の留意点**：草刈り等の林地管理による他の植物からの被圧防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

**ヤマホタルブクロ** キキョウ科  
*Campanula punctata* Lam. var. *hondoensis* (kitam.) Ohwi

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2010.7.23 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：大山山頂部や登山道脇に生育が見られる。個体数は多くないが、減少傾向はみられない。大山は自然分布の西限とみられる。

■**特徴**：山地の林縁や道端に生育する多年生草本。条件がよければ茎は高さ10–50 cmになる。花期は6–7月。白色の花を咲かせる。基本種である近縁のホタルブクロは県内の山野にふつうで、萼裂片の湾入部に反りかえる付属片がある。ヤマホタルブクロでは、湾入部に膨らみがあるだけで反り返る付属片はない。

■**分布** 県内：大山町。県外：本州（東北南部–近畿東部）。

■**保護上の留意点**：登山者による踏みつけ防止。採取防止。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

**サワギキョウ** キキョウ科  
*Lobelia sessilifolia* Lamb.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



岩美町 2008.9.24 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：湿地や湿地状のため池に生育するが、ため池の管理放棄にともない減少が顕著。園芸・切り花目的で採取されることも多い。

■**特徴**：湿地やため池周辺の水湿地に生育する大型の多年生草本。茎は円柱形で中空、高さ1 mになる。葉は無柄で互生、披針形、縁に細かい鋸歯がある。花期は9–10月。総状花序を出し、花は濃紫色。花冠は唇形、上唇は2深裂、下唇は浅く3裂する。雄しべの葯と花糸が合体、花柱が貫く。岩美町唐川のような保全地域では安定しているが、山間の小湿地やため池では、ヨシなどの高茎草本や周辺樹木の繁茂による環境変化で減少。八頭町姫路、鳥取市気高町重枝などは絶滅のおそれがある。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市気高町、八頭町、三朝町、琴浦町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿地およびため池の保全管理と採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

## キキョウ キキョウ科

*Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A.DC.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



岩美町 2005.9.9/撮影：坂田成孝

■選定理由：以前は広く利用されていた各地の草山に見られたが、利用放棄による遷移の進行や植林による草地の減少にともない希少化してきた。

■特徴：日当たりのよい草原に生育する多年生草本。夏から秋にかけて青紫色の花を咲かせ、目をひく。太い根茎をもち直立する。草丈は40–100 cm。葉は互生、まれに対生、輪生する。葉は狭卵形で長さ4–7 cm、先はとがり縁には鋭鋸歯がある。表面無毛、裏面には短毛があって粉白色を帯びる。花期は7–9月。茎頂近くに数個の花をつけ広鐘形で青紫色。径4–5 cm、浅く5裂する。鑑賞用にも栽培される。初版のVUからNTに変更。

■分布 県内：岩美町、鳥取市・気高町、三朝町、琴浦町、江府町、伯耆町。県外：北海道、本州、四国、九州、奄美。

■保護上の留意点：草地の草刈りや野焼き等の適度な保全管理。採取防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種

■文献：—

執筆：松田万由美

## ヌマダイコン キク科

*Adenostemma lavenia* (L.) Kuntze

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：—



鳥取県博所蔵標本：南部町 1982.9.23 川上明敏

■選定理由：県内では低地の用水路周辺泥湿地に採集記録がある。用水路改修で泥湿地がなくなり、長期にわたり生育記録がない。

■特徴：低地の用水路や泥湿地に生える多年生草本。茎は基部で湾曲、高さ30–100 cm。葉は対生、有柄、卵状楕円形、鈍鋸歯縁、両面にまばらに短毛がある。花期は9–11月。長い花柄を持つ白色の頭状花をつける。総苞は半球形で花後に反りかえる。瘦果は棍棒状で小突起または腺点がある。南部町の自生地は用水路のコンクリート化による泥湿地消失で絶滅したと思われる。鳥取市の自生地は低地湿田で、用水路改修により以前の生育場所がなくなり、休耕によりヨシ群落となった。数度の調査によっても発見できず、絶滅したものと考えられる。

■分布 県内：絶滅。県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：低地の用水路周辺泥湿地の維持。

■文献：—

執筆：坂田成孝

## チヨウジギク キク科

*Arnica montana* Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



三朝町 2010.10/撮影：上田康恵

■選定理由：県内では山地ブナ帯の多雪地に点在。沢沿いや岩隙などに生育し生育基盤が脆弱で、個体群が不安定。

■特徴：ブナ帯の多雪湿潤な沢沿い斜面、岩隙に生育する多年生草本。地下茎は横にはい、茎は株立ちする。高さ20–70 cm。葉は対生し、長楕円状披針形で低い鋸歯がある。花期は8–10月、茎頂に黄色の頭状花を散房状につけ花は横向きに咲く。花柄は長く密に白毛があり、特徴的。頭花には舌状花はない。和名は長花柄に付く花を丁字に見立てたもの。別名クマガク。

■分布 県内：氷ノ山、三国山、三徳山、大山。県外：本州、四国。多雪地帯。

■保護上の留意点：ブナ帯域沢沿いの自然植生保護。採取防止。特徴的な花序が目立ち、採取圧あり。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種

■文献：—

執筆：井上喜美子

## ハマベノギク キク科

*Aster arenarius* (Kitam.) Nemoto

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2005.9.9/撮影：永松 大

■**選定理由**：砂丘を中心に県内の海岸部に点在する。海岸部の自然植生が維持されれば残りそうだが、群落の規模はいずれも小規模。

■**特徴**：海岸の砂地や岩場に生育する越年生草本。基部から分枝して株状になり地をはう。枝の先は立ちあがって大きな頭花をつける。ロゼットで越冬する。根出葉はさじ形で厚いが、花期には枯れる。茎葉もさじ形で多数、長さ2-5 cm、縁に毛があり厚い。花期は8-10月。枝の先に径3.5 cmほどの頭花を1個つける。個体により開花時期はさまざまで花期は長い印象。砂丘地の周辺に多く、砂の上ではほとんど地面から立ちあがらない。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市・福部町、気高町、青谷町、湯梨浜町、北栄町、米子市。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：海岸部の自然植生保護・保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：50.

執筆：永松 大

## ウラギク キク科

*Aster tripolium* L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



米子市 2006.10.13/撮影：神谷 要

■**選定理由**：自生地はごくせまく個体数も少ない。県内ではもともと少ない海岸湿地が埋め立てなどで改変され、生育適地が激減。

■**特徴**：海岸の湿地に群生する越年生草本。県内では西部の干潟の最も奥まった場所に生育する。草丈は60 cmほどになり、茎は無毛。葉は披針形で肉厚、基部はわずかに茎を抱く。花期は8-10月。茎頂に多数の頭花をつける。頭花は径2 cmほど。塩分を含む場所に生育し、河口や海岸の湿地が生育適地だが、県内にはそのような場所はほとんどなく希少。種の分布も太平洋側がほとんど。

■**分布** 県内：米子市。県外：北海道（東部）、本州（関東以西の主に太平洋岸）、四国、九州。北半球温帯に広く分布。

■**保護上の留意点**：湿地の保護、保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：神谷 要

## シマカンギク キク科

*Chrysanthemum indicum* L.

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



鹿児島県南さつま市 2009.12.20/撮影：谷口研至

■**選定理由**：サンインギク（初版OT）の野生種。サンインギクはシマカンギクとキク（園芸菊、イエギク）との雑種で、野生植物として実体はない。遺伝的汚染によるシマカンギク個体群への影響が懸念される。

■**特徴**：雑種であるサンインギクは、野生種のシマカンギクに似るが、頭花は大きく、舌状花は白-黄色で数が多く、半八重になる。染色体数は $2n=54$ の六倍体。野生種であるシマカンギクの六倍体を含めてサンインギクと認識していることが多い。両者を識別する必要がある。

■**分布** 県内：鳥取市河原町・用瀬町、智頭町。シマカンギク六倍体とサンインギクの両方が含まれると思われる。県外：富山県以西の近畿、中国、九州。シマカンギク六倍体の分布域中に、雑種個体群が点在。

■**保護上の留意点**：雑種の特徴を示す個体は、野生種保全のため伐根除去。

■**特記事項**：サンインギクは国立・国定公園採取禁止指定種（\*雑種としての認識がされていない時に指定されたもの）

■**文献**：58.

執筆：中田政司

## ワカサハマギク キク科

*Chrysanthemum wakasaense* Shimot. ex Kitam.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2008.11.10/撮影：中田政司

■**選定理由**：鳥取市が国内の分布西限で、個体群として貴重。植生遷移や開発により個体数は減少。園芸菊との交雑による遺伝的汚染が懸念される。

■**特徴**：海岸や、海岸近くの内陸丘陵地の日当たりの良い崖に生育する多年生草本。11月上旬に直径3 cmほどの白い頭花をつける。リュウノウギクによく似ているが、ワカサハマギクは $2n=36$ の四倍体で、草姿や葉、頭花が大きい。1980年頃は湖山池西岸や鳥取市浜坂などでも見られたが、その後絶滅した。現在は丸山町など内陸の数カ所と、県内東部の海岸に分布。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市・福部町。県外：兵庫県-福井県の日本海側海岸。

■**保護上の留意点**：日当たりが悪くなると衰退するため、保全には周辺樹木の適度な伐採が必要。園芸菊との推定雑種が見つかった場合は、伐根除去による雑種化の防止が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：59.

執筆：中田政司

## イワギク キク科

*Chrysanthemum zawadskii* Herbich

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



船上山 2010.10.18/撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内の山地2カ所にわずかに生育する。岩場で個体数が限られ、生育基盤が脆弱。ここ10年は明らかな減少は止まりつつある。

■**特徴**：山中の岩場などに生える小型の多年生草本。茎は細く高さ20-30 cm、茎には細毛がある。葉は互生し、広卵形で長さ1-3.5 cm、2-3回羽状全裂-深裂する。葉は光沢があり裏面は銀白色を帯びる。花期は10月。白色の頭花をつけ径3-6 cm。県内では船上山と氷ノ山の岩場に自生が確認されており、秋の花時に確認しやすい。

■**分布** 県内：若桜町、琴浦町。県外：本州、四国、九州。東アジア、シベリア、東欧。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54.

執筆：磯江茂秋

## テリハアザミ キク科

*Cirsium lucens* Kitam.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



岡山県新見市 2007.10.21/撮影：藤原文子

■**選定理由**：以前は若桜町内の谷治いに自生していたが、2002年以来、生育を確認できなくなった。2010年の調査でも見つかっていない。

■**特徴**：若桜町の自生地は北から南に向かって流れる谷治いで、東向きの支谷のスギ植林地。小規模な土石流によって押し流された可能性がある。スギが成長して谷治いが暗くなった影響も考えられる。低木のミズナラやミズメ、オニイタヤ、キブシはほとんど成長していない。草本類も少なく、サカゲイノデ、ジュウモンジシダ、オククルマムグラ、アオミズなどの幼植物が散生するのみである。シカの食害もある。

■**分布** 県内：確実な自生地なし。県外：本州（中国地方）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：継続的な野外調査。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

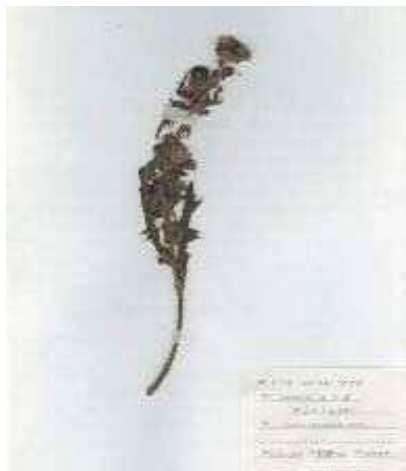
執筆：西尾幸弘



**ムラクモアザミ** キク科  
*Cirsium maruyamanum* Kitam.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



鳥取県博所蔵標本：大山 1932.7.10 生駒義博

■**選定理由**：鳥取県日南町が基準産地であるが、現在まで見つからない。絶滅の可能性が高い。

■**特徴**：中国地方の山中にて記録されている多年生草本。草丈は50–90 cm。根出葉は長楕円形で羽状に深裂し、先端に3–4 mmのトゲがある。茎葉は基部が広く茎を抱く。花期は5–7月。昭和12年に日南町で採集されて新種として発表されて以来、発見例がなかったが、1972年に島根県飯石郡飯南町（文献14）で、2002年に広島県三次市ほか（文献16）でごく少数が発見された。鳥取県内では発表以来記録例がない。鳥取県立博物館には1932年7月10日採集の標本（採集地、東伯郡大山）が収蔵されている。未記載種として採集され後日同定されたと考えられる。

■**分布** 県内：確実な自生地なし。県外：本州（島根県、広島県）。

■**保護上の留意点**：継続的な野外調査。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：14,16.

執筆：永松 大・清末幸久

**サンベサワアザミ** キク科  
*Cirsium tenuisquamatum* Kitam.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



江府町 2010.10.9 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内西部にのみ孤立的にわずかに自生、個体数も少ない。日南町の生育地の1カ所は絶滅した可能性がある。

■**特徴**：山間の湿潤地に生育する大型の多年生草本。県内では用水路沿いや農道わきに2–10個体が残存する。茎はくも毛があり高さ50–100 cm。根出葉は大形で狭楕円形、粉白色を帯びやや薄質。羽状中裂し、粗鋸歯縁、刺針は少なく、花時まで残る。茎葉はやや茎を抱く。花期は10–11月。茎頂に単生し径5 cm、淡紅紫色。総苞にくも毛があり頭花基部には苞葉がある。花後は直立する。農道の草刈りがなくなり、個体数が減少した事例あり。

■**分布** 県内：江府町、日野町、日南町。県外：島根県、広島県、岡山県。

■**保護上の留意点**：草刈等による林縁の管理。地元への啓発。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

**ヒゴタイ** キク科  
*Echinops setifer* Ilijin

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



岩美町 2008.9.4 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では東部の海岸1カ所にのみ自生。個体数少なく、花時には採取されることがある。

■**特徴**：やや乾いた山地草原に生育する夏緑性の多年生草本。草丈は1 mほどになり、茎にはくも毛を密生して白く見える。上部で少数枝に分かれる。葉は長柄があり、葉身は羽状深裂。裏はくも毛で白色。花期は8–9月。頭花は集まって径5 cmほどの球形となる。九州の草原では以前はふつうにみられたとされるが、採取圧と草原の減少により現在はまれ。県内では海岸の風衝地草原にわずかに自生する。容易に採取できる場所に生えた株には茎を切り取られた跡がみられ、個体群への影響が心配される。

■**分布** 県内：岩美町。県外：本州（西日本に隔離分布）、九州。

■**保護上の留意点**：草原の保護、保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：52.

執筆：永松 大

## フジバカマ キク科

*Eupatorium japonicum* Thunb.

鳥取県：野生絶滅 (EW)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



とっとり花回廊(栽培) 2009.9.19/撮影: 矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では千代川河川敷に1カ所、確認されていたが、2004年秋の台風出水と、その後の河川復旧工事により絶滅した。

■**特徴**：河原や河川の堤防などに群生する多年生草本。茎は高さ1.5 mに達する。葉は対生して明らかな葉柄があり、上部の葉は3裂する。花期は8-9月、頭花は散房状に多数つく。古い時代に中国からもたらされた外来植物と考えられているが、秋の七草に数えられ親しまれてきた。かく乱される湿った草地に生育してきたが、河川の自然かく乱減少などにより各地で希少化が進み、保護の対象となっている。千代川下流のせまい高水敷に群落があったが、台風出水により堤防直下までえぐられて群落全体が消滅した。高水敷の復旧工事後は環境も変わり、生育がみられなくなった。

■**分布** 県内：野生絶滅。県外：本州（関東以西）-九州。朝鮮，中国。

■**保護上の留意点**：とっとり花回廊にて、千代川由来の個体を栽培。

■**文献**：95.

執筆：永松 大

## ヤナギタンポポ キク科

*Hieracium umbellatum* L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



伯耆町 2010.9.12/撮影: 矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での自生は西部の1カ所のみで個体数も少ない。過去には県内中西部の道端、草原、湿原など数カ所に記録があったが絶滅。

■**特徴**：山地の日当たりのよい湿地や湿った草原に生育する多年生草本。高さ50-80 cm。茎葉は多数互生し長楕円披針形で先はとがり、少数の鋭い鋸歯がある。荒い毛があって触るとざらつく。8-9月ごろ茎頂に多数の黄色の頭花をつける。径3 cmほど。頭花は筒状花がなく、舌状花だけからなり、ニガナ類に似る。県内の自生地は道路わき。

■**分布** 県内：伯耆町。県外：北海道，本州，四国。北半球に広く分布。

■**保護上の留意点**：道路維持管理時の除草防止，被圧木の除去。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

## カセンソウ キク科

*Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



湯梨浜町 2006.7.16/撮影: 磯江茂純

■**選定理由**：県内では海岸沿いや山地の草地に自生するが、数は多くない。道路沿いの個体群は草刈りされることが多いが、草地の維持は必要。

■**特徴**：日当たりのよい山地や海岸の草地に生育する多年生草本。茎は直立し上部で分枝する。有毛で高さ20-50 cm。葉は披針形、紙のように乾いた感じでざらつく。鋭頭で基部は茎を抱く。花期は7-9月。頭花は橙黄色で茎頂に1個つく。舌状花は線状で径約3 cm。湿地生のオグルマに似るが、カセンソウはより乾いた場所に生育し、葉は細長くて硬く、裏面の葉脈が明瞭に浮き出る。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市・福部町・気高町・青谷町，湯梨浜町，三朝町，琴浦町，江府町。県外：本州（山形県以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：自生草地の維持管理。地元の方々への啓発。

■**文献**：—

執筆：伊澤寛治